

四国中央市では目標に掲げる「子育て環境四国一」を目指し、子どもたちの基礎体力の向上や環境対策を始め、地域のふれあいの場の創出や活性化を図るため、鳥取方式による校庭や園庭等の芝生化に取り組んでいます。

芝生化の効果

- ・すり傷などの怪我が減少します。
- ・砂ぼこりがたたず、空気がきれいです。
- ・夏場のグラウンドや隣接する建物内の温度が低くなります。
- ・子どもたちの体力と運動能力が向上します。
- ・水はけが良く、ぬかるみにならないので靴や服が汚れにくくなります。
- ・見た目がきれいで目にやさしく落ち着きます。
- ・芝刈りを頻繁にすることで雑草が生えにくくなります。

鳥取方式の芝生化とは？

鳥取方式の芝生化は、従来型と比べ低コストで養生期間も短く、一年中緑の芝生が楽しめる画期的なものです。

まず、事業開始年度の6月にティフトン419（バミューダ芝）という品種のポット苗を植え付けると、8月には夏芝が一面に生え揃います。芝生の緑色が薄くなり始めた10月頃に、ペレニアル（ライグラス）という冬芝の種をまき一年中緑を保ちます。この冬芝は1年もので、翌年の初夏には前年に植えた夏芝が勢いを増し、入れ替わることとなります。

初年度のコストは、スプリンクラー工事や芝刈り機の購入など全ての費用を含めて、1㎡あたり800円程度（従来型5,000円）で、2年目以降の管理コストも1㎡あたり140円程度（従来型1,200円）と低コストとなっています。

また、農薬散布は一切行わず、健康や環境にも害のない安全な方式です。

協働による事業展開

この芝生化事業は、市民の皆様と市との協働事業として推進しています。具体的には、施設利用者である子どもたちの保護者や、周辺地域の住民の皆様で構成する団体により芝生の管理作業を行っていただき、管理に必要な費用は補助金交付により市が全額負担することとしています。つまり、芝生化を行う上で最も費用が掛かる、芝刈りや施肥等の労力を市民の皆様にご提供していただくことにより、非常に少ない経費での事業拡大が可能となっています。

平成21年度の事業開始から平成24年度までに、市内12箇所の園庭、校庭及び児童館などの子ども広場が芝生化されていますが、全ての芝生広場において、PTAや周辺住民の芝生サポーターと呼ばれる大人たちが、子どもたちにとって快適な環境づくりに汗を流しています。

芝生管理の作業量は？

芝生化すれば子どもたちが喜ぶのは分かるが、芝生の管理は大変じゃないのかということをよく尋ねられます。場所によって多少の違いはありますが、標準的な作業量は次のとおりです。

芝刈り：夏は週1回、春、秋は月2回、冬は月1回：（1回当たりの作業時間40～60分）

水遣り：夏は2日に1回、春、秋は3日に1回、冬はなし（スプリンクラーで30分～40分）

施肥：夏は月2回、春、秋は月1回、冬は2カ月に1回（芝刈りと一緒に作業）

列記すると作業量が多く感じられますが、団体の皆さんで分担すれば1年に数回、1時間足らずの作業を行っていただくことにより、子どもたちに1年中緑の芝生を提供することができます。

芝生化の状況

今年度、土居東幼稚園の園庭850㎡を新たに芝生化することとなり、去る6月16日に芝生の植付けを行いました。これにより市内13箇所、10,950㎡のこども広場が芝生化されることとなります。今後も市民の皆様にご協働を実感していただける事業として推進していきたいと考えています。

子育て支援ネットワーク しこちゅ〜・ほこほこネット 【資料2】

1. 活動の目的

しこちゅ〜・ほこほこネットは、「子育て環境 四国一」を目指す四国中央市と協働し、子育てを支援する人などが子育て支援の技術向上などを図りながら、相互の交流・連携に努め、四国中央市内の子育て支援活動を充実させ、子育てしやすい環境と親子の交流を図ることを目的に活動しています。

ボランティア団体等と行政が一緒になって、子育て支援のために一緒に活動しよう!!ということ

2. 設立の経緯

平成22年度に、子育てに関わる団体や関係機関などがこれまで以上に連携・協働して、市民総ぐるみで子育て支援に取り組み、地域の子育て力を向上させるため、そして子育て支援の活動を発信する場として「子育てフェスタ2010」を開催しました。その実行委員会のメンバーが中心となって、継続的な活動を行うために設立したのが、子育て支援ネットワーク「しこちゅ〜・ほこほこネット」です。

3. メンバー

市役所内の子育て関係部署（こども課、保健推進課、児童センター・子育て支援センター、発達支援室）、宇摩歯科医師会、愛護班連絡協議会、助産院、NPO法人（子育て支援関係）、産業カウンセラー、不登校を考える親の会、病児病後児保育ルーム、おはなし会、療法的音楽サークルなどに所属する約40名



ほこほこネットのメンバー

3. 主な活動

①子育てフェスタ

市内の子育て支援団体やボランティアグループなどが一堂に会し、それぞれの活動を情報発信するとともに、連携・協力できる体制を確立しながら、子育て親子の交流などをはかるために四国中央子育てフェスタを市の委託事業としてほこほこネットが開催しています。市民の皆さんにとっては、子ども達を楽しく遊ばすことができるとともに、普段、気にしている子どもの成長やしつけなどについて、気軽に専門的な相談が受けられる場として大変喜ばれています。

なお、運営はもちろんのこと、準備片付けについても、メンバーをはじめライオンズクラブなどの協力をいただきながら、官民協働で取り組んでいます。

②研修活動

メンバーには、医師や歯科医をはじめ、保健師や産業カウンセラー、また様々なボランティア活動を行っている人がいます。こうしたメンバーが自分達の活動などを発表する研修を開催し、子育て支援の情報を共有して支援を必要としている人に適切なアドバイスができるように努めています。これまでに、歯科医による「おやつと虫歯」、保健師による「予防接種について」、また川之江ワン&オンリーの会による「エンブリオ募金活動」など、行政の制度概要からボランティアの活動内容まで子育て支援のための幅広い情報共有を図っています。



会議の様子

③四国中央市子育て応援キャラクター ほっこりん

ほっこりんは、四国中央子育てフェスタ2010を開催する際に、「子育て環境 四国一」を目指す市の象徴的なものとして実行委員会（ほこほこネットの前身）と共に作成しました。

地域に根ざした要素を含んだキャラクターとするために、当市の名産品である里芋を活かしたデザインとし、里芋同様にたくさんの子どもに恵まれるまちなってほしいとの願いなどが込められています。

子ども達のために、メンバー等がボランティアで市内の子育てイベントや保育所、幼稚園等でほっこりんの着ぐるみショーなどを行っています。

なお、ほっこりんは、市の子育て支援のホームページの案内役として大活躍しています。



©四国中央市

ほっこりん

1、書道パフォーマンスとは

書道パフォーマンス甲子園の正式名称は「全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会」といい、日本一の紙のまちの特色を生かした書道大会として平成20年から四国中央市で始まった。

これは、全国の高校の書道部を四国中央市に集め、1チーム12名までの構成で、流行歌やBGMに合わせ6分間で作品を書き上げ、その技術などを競い合う大会。

その作品が書きあがり披露されると、観客からは、大きなよめきと拍手が沸き起こる。

参加校が優勝を目指し、真剣に書とパフォーマンスに取り組む姿勢はとても美しく、表彰式での結果発表で見せる喜び・悔しさの涙は観客に大きな感動を与える。

平成20年度に始まった本大会も、これまで5回の回数を数え、今年度7月28日（日）に第6回大会が開催される。

2、書道パフォーマンスの効果

(1) 増え続ける出場校～映画化をきっかけに～

第1回大会では、3校応募で3校出場だったが、第2回大会以降に、本大会を題材とした映画「書道ガールズ！！私たちの甲子園」が全国一斉公開され、その人気に火がつき、平成24年度の第5回大会は32校応募の19校出場と、関心度は10倍以上に膨れ上がった。

平成25年度の第6回大会は51校の応募があり北海道から九州までエントリーがあった。

【参考】

第1回	平成20年8月	川之江駅通り商店街	3校出場	優勝	愛媛県	三島高校	観客	延	300
第2回	平成21年7月	川之江駅通り商店街	5校出場	優勝	広島県	五日市高校	観客	延	1500
第3回	平成22年7月	川之江体育館	18校申込12校出場	優勝	大分県	大分高校	観客	延	3000
第4回	平成23年7月	川之江体育館	21校申込15校出場	優勝	大分県	大分高校	観客	延	3500
第5回	平成24年7月	川之江体育館	32校申込19校出場	優勝	鳥取県	鳥取東高校	観客	延	4000
第6回	平成25年7月	三島体育館	51校申込						

(2) 総務省主催 第15回ふるさとイベント大賞 優秀賞 受賞

地域の活力を生み出すイベントを表彰し、全国に向けて紹介することを目的とした総務省主催の標記事業で、優秀賞（実質全国2位）を受賞。全国から注目されるイベントとなった。

(3) 東日本大震災復興支援

未曾有の被害を被った岩手・宮城から、特別枠として、高校生を招致。四国中央市に触れて頂くと共に全国から支援を頂いた被災校から感謝のメッセージを全国に発信できた。

3、協働による大会実施

第1回大会より、市民団体等との協働による大会運営を行ってきた。

- 第1回 平成20年8月 紙まつり実行委員会と協働で運営
- 第2回 平成21年7月 紙まつり実行委員会と協働で運営
- 第3回 平成22年7月 紙まつりの事業の一部として実施 紙まつり実行委員会の協力と高校生約80名の協力
- 第4回 平成23年7月 大会が大きくなったため、紙まつりと連携しながらも、独自組織を結成。
6名程度の民間人と高校生約100名の協力
- 第5回 平成24年7月 「学生の祭典」と明確に位置づけ、市内3校との連携強化に努める
当日の高校生スタッフ約60名に加え企画段階から高校生12名が参画
その企画が採用され、高校生デザインのポスターや、高校生による出場校交流会、高校生によるアトラクション企画等の実現に至った。

4、今後の方針

本大会の目標の一つには、「高校生の高校生による高校生のための甲子園」「学生の祭典」が位置づけられている。

今後も、地元3校の高等学校と協働により運営を行い、学校・地域・行政が連携を深めながら運営を進めることで、地域一体感の醸成の一助を担っていきたい。

また、一般ボランティアスタッフの更なる協力も目指して行きたい。

市民で灯そう 10万の光り事業

【資料4】

事業の概要

平成21年度より民間若手団体が構成される「市民で灯そう10万の光り実行委員会」との協働で実施している事業。インターチェンジ周辺部をイルミネーションで装飾することをきっかけとして、「点から線へ、そして面へ」と光りの輪を広げ、市内全域の活性化につなげていくことを目指しており、イルミネーション装飾や集客イベントである点灯式や冬夜市が、新聞・テレビ等の各種メディアで多く取り上げられるなど、市のPRやイメージアップに一定の効果があつた。

イルミネーション装飾

県道三島川之江港線の三島川之江インターチェンジ交差点から北側へ向けて、街路樹や防護柵をLEDによる装飾をおこなっている。

	H21	H22	H23	H24
点灯期間	12/1～1/10 (41日間)	12/1～2/26 (88日間)	12/1～2/11 (73日間)	12/1～2/9 (71日間)
点灯時間	17～22時	17～22時	18～22時	日没～22時
点灯区間	700m	1,250m	700m	700m
点灯球数	60,400灯	102,940灯	70,200灯	60,000灯

平成24年度より「東日本復興応援企画」として、「がんばろう！日本」のLEDサインボードを設置。

集客イベントなど

- ・12月1日点灯式を実施。
- ・12月23日（祝日）冬夜市を開催。ご当地グルメや各種団体による飲食店やミニSL、人工降雪機などの催し物を実施した。
- ・市内でイルミネーション装飾を行っている個人や事業所を掲載したイルミネーションマップを作成し、市内全戸及び四国内の自治体等へ配布した（H21, 22）

市民との協働

- ・事業については市と実行委員会とで協定書を締結したうえで、毎年度の事業計画を策定している。
- ・イルミネーション装飾・撤去等の作業は、すべて実行委員会と市民によるボランティアで行っており、平成24年度は延べ231人が参加した。参加者は市報やホームページで募集しており、市内の3つの高校からも大勢の生徒が参加している。
- ・冬夜市の出店については、婦人会や高校生徒会なども参加し、売上の一部で震災被災地の復興活動を支援している。